(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2008-307308
(P2008-307308A)
(43)公開日　平成20年12月25日(2008.12.25)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A47B 96/20	(2006.01)	A47B	96/20	B	3B060
A47B 77/00	(2006.01)	A47B	77/00		
A47B 88/00	(2006.01)	A47B	88/00	E	

審査請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 13 頁）

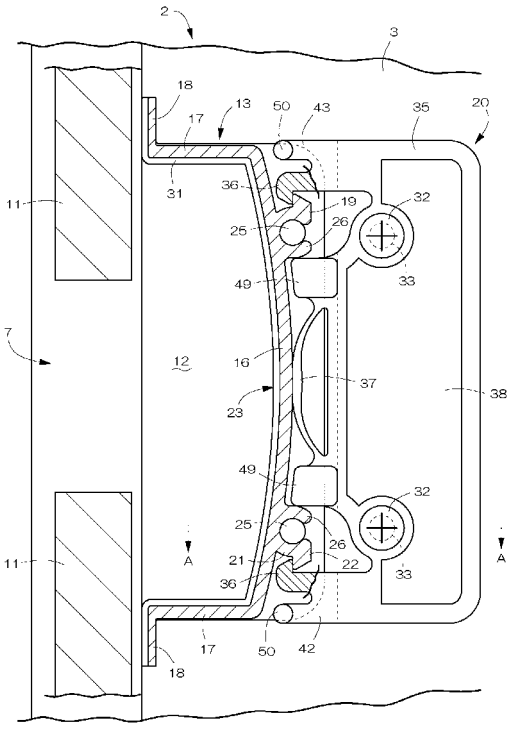
(21)出願番号　特願2007-159765 (P2007-159765)
(22)出願日　平成19年6月18日 (2007.6.18)

(71)出願人　591145461
榎本金属株式会社
大阪府大阪市西区南堀江２丁目１０番１０号
(74)代理人　100148138
弁理士　森本　聡
(72)発明者　中川　恭子
大阪府大阪市西区南堀江２丁目１０番１０号　榎本金属株式会社内

Ｆターム(参考)　3B060 CA01　LA01

(54)【発明の名称】化粧板の取付構造

(57)【要約】
【課題】化粧板１３の取り付け作業に際して、収納体２の収納空間Ｓ内に作業者が潜り込んで、ブラケット２０と化粧板１３との間のビス止め作業等を行う必要がなく、したがって化粧板１３を少ない手間で作業効率良く取り付けることができる、化粧板１３の取付構造を提供する。
【解決手段】化粧板１３の後面に、後端部に抜止部２２を有する上下一対の係合壁２１・２１を設ける。ブラケット２０の前面に、前端部に係合爪４１を有する上下一対の弾性係合腕４０・４０を設ける。予め収納体２の左右側板３・３の内面にブラケット２０・２０を固定したうえで、ブラケット２０・２０の上下の弾性係合腕４０・４０に、化粧板１３の上下の係合壁２１・２１を位置合わせして、化粧板１３を後方に向かって押し込む。これにて、両弾性係合腕４０・４０が撓み変形して係合爪４１が抜止部２２に至り、化粧板１３をブラケット２０に装着することができる。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
収納体（２）の左右側板（３）の内面に固定される左右一対のブラケット（２０・２０）と、これらブラケット（２０・２０）に固定支持されて、該収納体（２）の前面開口（７）に設置される化粧板（１３）とを備えており、
化粧板（１３）は、左右方向に走るベース壁（１６）と、該ベース壁（１６）の上下端部に連続して前方向に突出する上下壁（１７・１７）とを有する条材であり、ベース壁（１６）の後面には、該化粧板（１３）をブラケット（２０）に差し込み係合するための装着部（１９）が設けられており、
ブラケット（２０）は、左右側板（３）の内面に締結固定するための締結孔（３３）を有するベース（３５）と、該ベース（３５）の前面側に設けられて装着部（１９）と係合する係合部（３６）と、該係合部（３６）に係合捕捉された化粧板（１３）を前方向に付勢する付勢部（３７）とを有する樹脂成形品であり、
装着部（１９）は、ベース壁（１６）の後面から後方向に突設する上下一対の係合壁（２１）と、該係合壁（２１）の後端部に設けられた抜止部（２２）とを含み、
係合部（３６）は、ベース（３５）の前部から前方向に張り出し形成された上下一対の弾性係合腕（４０・４０）と、該弾性係合腕（４０）の前端部に設けられて抜止部（２２）に係合する係合爪（４１）とを含み、上下の弾性係合腕（４０・４０）の間に付勢部（３７）が設けられており、
係合爪（４１）の後向きに指向する係合面（４５）と、抜止部（２２）の前向きに指向する受面（２７）とが係合することで、化粧板（１３）が抜け止め不能にブラケット（２０）に装着され、かかる装着状態において、付勢部（３７）が化粧板（１３）を前方向に付勢するように構成されていることを特徴とする化粧板の取付構造。
【請求項２】
抜止部（２２）の外側壁に、係合爪（４１）を係合案内する傾斜案内面（２８）が形成されている請求項１記載の化粧板の取付構造。
【請求項３】
左右のブラケット（２０・２０）は、左右勝手違いに形成されており、
ブラケット（２０・２０）の左右側面のいずれか一方から、位置決め用の凸部（４９・５０）が突設状に形成されていて、他方の左右側面が、出っ張りの無い平坦状に形成されている請求項１または２記載の化粧板の取付構造。
【請求項４】
ブラケット（２０）の左右側面のいずれか一方から、位置決め用の凸部（４９・５０）が突設状に形成されていて、他方の左右側面が、出っ張りの無い平坦状に形成されており、
ブラケット（２０）が上下対称状に形成されている請求項１または２記載の化粧板の取付構造。
【請求項５】
ベース（３５）の上下両端から前方向に向かって導出端部（４２）が張り出し形成されており、
導出端部（４２）の前端部は、連出腕（４３）と弾性係合腕（４０）とからなる二股形状とされており、
連出腕（４３）と弾性係合腕（４０）との間に、該弾性係合腕（４０）の変形を許す変形隙間（Ｅ）が形成されている請求項１ないし４のいずれかに記載の化粧板の取付構造。
【請求項６】
付勢部（３７）が、ベース（３５）の前端面から前方向に向かって両持ち状に連出されたアーチ状の弾性部材（４７）である請求項１ないし５のいずれかに記載の化粧板の取付構造。
【請求項７】
付勢部（３７）が、ベース（３５）の前端部から前方向に向かって片持ち状に連出され

た上下一対の弾性部材（４７・４７）であり、
一方の弾性部材（４７）が、ベース（３５）の右側面から左方向に向かって連出されており、
他方の弾性部材（４７）が、ベース（３５）の左側面から右方向に向かって連出されている請求項１ないし５のいずれかに記載の化粧板の取付構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、台所収納体などの各種収納体の前面開口に装着される化粧板の取付構造に関する。
【背景技術】
【０００２】
例えばキャビネットと称される台所収納体の分野においては、拭き掃除の容易性の利点などから扉部分に把手を持たないフラット扉タイプの引き出しが広く採用されている（例えば、特許文献１参照）。かかるフラット扉タイプの引き出しを具備する台所収納体では、把手の替わりとなる手掛かりスペースを確保することを目的として、上下の引き出しの間に、凹入部を有する断面コ字形または断面半円弧状の化粧板が組み付けられており、この凹入部に被さる扉板の上下部分に手指を掛けることで、引き出しを開き操作することができる。
【０００３】
【特許文献１】特開２００６－６１３２５号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
化粧板は、左右方向に長い条材であり、台所収納体の左右側板の内面に固定される左右一対のブラケットで固定支持される。従来におけるブラケットと化粧板の取り付けは、その多くがビスによる締結固定方法である。また、化粧板側の背面に設けられたレールに固定ピースを嵌め込んだうえで、固定ピースとブラケットとをビスで固定するものもある。
そのため、台所収納体に対して化粧板を固定する場合には、ブラケットと化粧板とを位置合わせして該ブラケットの姿勢を維持したうえで、台所収納体の収納空間内に潜り込んで、電動ドライバーやレンチなどの締結具を使ってビス止め作業を行う必要があり、化粧板の取り付け作業に多くの人手や手間が掛かっていた。
【０００５】
本発明の目的は、化粧板の取り付け作業に際して、収納体の収納空間内に作業者が潜り込んで、ブラケットと化粧板との間のビス止め作業等を行う必要がなく、したがって化粧板を少ない手間で作業効率良く取り付けることができる、化粧板の取付構造を提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明は、図１ないし図５に示すように、収納体２の左右側板３の内面に固定される左右一対のブラケット２０・２０と、これらブラケット２０・２０に固定支持されて、該収納体２の前面開口７に設置される化粧板１３とを備える、化粧板１３の取付構造を対称とする。図１および図４に示すように、化粧板１３は、左右方向に走るベース壁１６と、該ベース壁１６の上下端部に連続して前方向に突出する上下壁１７・１７とを有する条材であり、ベース壁１６の後面には、該化粧板１３をブラケット２０に差し込み係合するための装着部１９が設けられている。ブラケット２０は、左右側板３の内面に締結固定するための締結孔３３を有するベース３５と、該ベース３５の前面側に設けられて装着部１９と係合する係合部３６と、該係合部３６に係合捕捉された化粧板１３を前方向に付勢する付勢部３７とを有する樹脂成形品である。
【０００７】

装着部１９は、ベース壁１６の後面から後方向に突設する上下一対の係合壁２１と、該係合壁２１の後端部に設けられた抜止部２２とを含む。係合部３６は、ベース３５の前部から前方向に張り出し形成された上下一対の弾性係合腕４０・４０と、該弾性係合腕４０の前端部に設けられて抜止部２２に係合する係合爪４１とを含み、上下の弾性係合腕４０・４０の間に付勢部３７が設けられている。そして、係合爪４１の後向きに指向する係合面４５と、抜止部２２の前向きに指向する受面２７とが係合することで、化粧板１３が抜け止め不能にブラケット２０に装着され、かかる装着状態において、付勢部３７が化粧板１３を前方向に付勢するように構成されていることを特徴とする。

【０００８】

図６に示すように、抜止部２２の外側壁に、係合爪４１を係合案内する傾斜案内面２８を形成することができる。

【０００９】

図１２（ａ）・（ｂ）および図１３（ａ）・（ｂ）に示すように、左右のブラケット２０（２０ｃ）・２０（２０ｄ）が、左右勝手違いに形成された形態を取ることができる。そして、ブラケット２０（２０ｃ）・２０（２０ｄ）の左右側面のいずれか一方から、位置決め用の凸部４９・５０が突設状に形成されていて、他方の左右側面が、出っ張りの無い平坦状に形成された形態を採ることができる。

【００１０】

図１および図７に示すように、ブラケット２０の左右側面のいずれか一方から、位置決め用の凸部４９・５０が突設状に形成されていて、他方の左右側面が、出っ張りの無い平坦状に形成されており、ブラケット２０が上下対称状に形成された形態を採ることができる。

【００１１】

図６に示すごとく、ベース３５の上下両端から前方向に向かって導出端部４２が張り出し形成されており、導出端部４２の前端部は、連出腕４３と弾性係合腕４０とからなる二股形状とされており、連出腕４３と弾性係合腕４０との間に、該弾性係合腕４０の変形を許す変形隙間Ｅが形成されている形態を採ることができる。

【００１２】

図１および図４に示すごとく、付勢部３７は、ベース３５の前端面から前方向に向かって両持ち状に連出されたアーチ状の弾性部材４７とすることができる。

【００１３】

図９および図１０に示すごとく、付勢部３７は、ベース３５の前端部から前方向に向かって片持ち状に連出された上下一対の弾性部材４７・４７であり、一方の弾性部材４７が、ベース３５の右側面から左方向に向かって連出されており、他方の弾性部材４７が、ベース３５の左側面から右方向に向かって連出されている形態を採ることができる。

【発明の効果】

【００１４】

本発明に係る化粧板の取付構造においては、化粧板１３の後面に、後端部に抜止部２２を有する上下一対の係合壁２１・２１を設け、ブラケット２０の前面に、前端部に係合爪４１を有する上下一対の弾性係合腕４０・４０を設けた。したがって、予め収納体２の左右側板３・３の内面にブラケット２０・２０を固定したうえで、ブラケット２０・２０の上下の弾性係合腕４０・４０に、化粧板１３の上下の係合壁２１・２１を位置合わせして、化粧板１３を後方に向かって押し込めば、両弾性係合腕４０・４０が撓み変形して係合爪４１が抜止部２２に至り、該係合爪４１の抜止部２２に対する圧嵌係合で化粧板１３を確実に装着することができる。換言すれば、化粧板１３をブラケット２０に位置合わせしたうえで、該化粧板１３をブラケット２０に向かって押し込むだけで、ブラケット２０の係合爪４１と化粧板１３の抜止部２２との間に圧嵌係合状態が確立され、化粧板１３を収納体２の前面開口７に嵌め殺し状に取り付けることができる。

【００１５】

このように本発明に係る取付構造によれば、収納体２の前面側からの化粧板１３の押し

込み操作だけで、化粧板１３を取り付けることができるので、従来の化粧板１３の取り付け作業では不可欠であった、収納体２の収納空間Ｓ内に作業者が潜り込んでのブラケット２０と化粧板１３との間のビス止め作業等の煩わしい作業を完全に排することができ、したがって、化粧板１３を少ない手間で作業効率良く取り付けることができる。狭い収納空間Ｓ内で無理な姿勢で作業を行う必要がなく、作業者の負担が少ない点でも優れている。左右側板３・３に対してブラケット２０・２０を位置精度良く取り付けることにより、化粧板１３が傾いたり、位置ズレすることも確実に防止できる。したがって、化粧板１３を収納体２に対して高精度に取り付けることができる。

【００１６】

また、かかる係合爪４１による装着状態では、図６に示すごとく、係合爪４１の後向きに指向する係合面４５と、抜止部２２の前向きに指向する受面２７とが係合するとともに、付勢部３７の弾性力で化粧板１３は前方向に付勢される。これによれば、付勢部３７の弾性力で受面２７を係合面４５に遊動不能に押し付けて、両面２７・４５間の大きな係合力で化粧板１３を保持することができるので、化粧板１３の脱落を確実に防ぐことができる。化粧板１３がガタ付いて耳障りな騒音を発することもない。

【００１７】

抜止部２２の外側壁に、傾斜案内面２８を形成していると、これら傾斜案内面２８で係合爪４１を案内し、抜止部２２に落とし込み係合できるので、化粧板１３のブラケット２０に対する取り付け作業が円滑にしかも確実に行える。

【００１８】

この種の取付構造では、予め左右側板３に開口部５３が開設されており、当該開口部５３にブラケット２０の一部が臨むようにブラケット２０を定着する形態（図１３（ａ）・（ｂ））と、開口部５３の無い平坦な左右側板３にブラケットを定着する形態（図１２（ａ）・（ｂ））がある。前者の形態（図１３（ａ）・（ｂ））では、開口部５３の開口縁を利用して、ブラケット２０を位置決めすることを目的として、該ブラケット２０には位置決め用の凸部４９・５０が突設状に形成される。

そこで、本発明のように、ブラケット２０の左右側面のいずれか一方から、位置決め用の凸部４９・５０が突設状に形成されていて、他方の左右側面が、出っ張りの無い平坦状に形成されていると、前者の開口部５３にブラケット２０を装着する場合（図１３（ａ）・（ｂ））には、凸部４９・５０を有する左右側面を収納体２の左右側板３側に指向させて、凸部４９・５０が開口部５３に落ち込み、凸部４９・５０の側面が開口縁に当接するように配すれば、ブラケット２０を位置精度良く取り付けることができる。また、後者の開口部５３の無い平坦な左右側板３の内面にブラケット２０を装着する場合（図１２（ａ）・（ｂ））には、出っ張りの無い平坦状の面を左右側板３側に指向させれば、凸部４９・５０が左右側板３に当たることがなく、ブラケット２０をガタ付くことなく装着することができる。

【００１９】

そのうえで、上述のような一方の側面に凸部４９・５０を有し、他方の側面が平坦状に形成された左右のブラケット２０（２０ｃ）・２０（２０ｄ）を左右勝手違いに形成していると、左右対称の２種類のブラケット２０ｃ・２０ｄだけで、上述の開口部５３を有する左側板３および右側板３に対する取り付け形態（図１３（ａ）・（ｂ））にも、平坦な左側板３および右側板３に対する取り付け形態（図１２（ａ）・（ｂ））にも適用できる。換言すれば、２種のブラケット２０ｃ・２０ｄで、上述の２種の取り付け形態（開口部５３の有無）における左右の両側板３に適用することができ、ブラケット２０ｃ・２０ｄを共用部品化することができる。これによれば、ブラケット２０ｃ・２０ｄを共用化した分だけ部品の種類を減らし、同時に成形用金型を削減できるので、化粧板１３が取り付けられる収納体２の全体コストを削減化して、低コスト化要求に応えることができる。

【００２０】

同様に、図１および図７に示すごとく、ブラケット２０の左右側面のいずれか一方から、位置決め用の凸部４９・５０が突設状に形成されていて、他方の左右側面が、出っ張り

の無い平坦状に形成されており、ブラケット２０が上下対称状に形成されていると、１種のブラケット２０だけで、上述の開口部５３を有する左側板３および右側板３に対する取り付け形態（図７および図８）にも、平坦な左側板３および右側板３に対する取り付け形態（図１）にも適用できる。換言すれば、１種のブラケット２０で、上述の２種の取り付け形態（開口部５３の有無）における左右の両側板３・３に適用することができ、ブラケット２０を共用部品化することができる。この場合にも、ブラケット２０を共用化した分だけ部品の種類を減らし、同時に成形用金型を削減できるので、化粧板１３が取り付けられる収納体２の全体コストを削減化して、低コスト化要求に応えることができる。

【００２１】

ベース３５の上下両端から前方向に向かって張り出し形成された導出端部４２が、連出腕４３と弾性係合腕４０とからなる二股形状とされており、これら連出腕４３と弾性係合腕４０との間に、該弾性係合腕４０の変形を許す変形隙間Ｅが形成されていると、ベース３５からの係合爪４１の適正な張り出し寸法を確保しながら、弾性係合腕４０の長さ寸法が過剰に大きくなることを防ぐことができる。より詳しくは、弾性係合腕４０の長さ寸法が過剰に大きくなると、勢い良く引き出しが閉じ操作されたときの衝突衝撃等により弾性係合腕４０が不用意に撓み変形して、化粧板１３が脱落するおそれがあるが、本発明のように導出端部４２を二股形状として一方を弾性係合腕４０としていると、化粧板１３の取り付け時に際して、該化粧板１３を強く押し付けたときにのみ撓み変形し得る程度に、弾性係合腕４０の長さ寸法を最小限に抑えることができ、大きな係合力を得ることができる。このことは、化粧板１３を嵌め殺し状に確実に取り付けることができることを意味し、取付構造の信頼性の向上に貢献できる。

【００２２】

付勢部３７の形態としては、図１に示すごとくベース３５の前端面から前方向に向かって両持ち状に連出されたアーチ状の弾性部材４７とすることができる。図９に示すように、ベース３５の前端部から前方向に向かって片持ち状に連出された上下一対の弾性部材４７・４７としてもよい。前者の形態では、アーチ状の弾性部材４７の弾発力により、化粧板１３を前方向に付勢することができる。後者の形態では、左右交差状に伸びる上下一対の弾性部材４７・４７に由来する弾発力により、化粧板１３を前方向に付勢することができる。前者の形態は、弾性係合腕４０・４０の上下の間隔寸法を十分に確保することができる場合に好適である。後者の形態は、弾性係合腕４０・４０の上下の間隔寸法が小さい小型のブラケット２０に好適である。

【発明を実施するための最良の形態】

【００２３】

（第１実施形態）

図１ないし図５に本発明に係る化粧板の取付構造の第１実施形態を示す。図２に示すように、この取付構造は、所謂キッチンキャビネットと称される台所収納体（以下、単に収納体と記す）２に適用されるものであり、図示例では、左右方向の長さ寸法の異なる四種の収納体２を左右方向に列設して、一つのシステムキッチン１を構成している。図１および図３に示すように、各収納体２は、左右側板３と後板４と天板５と底板６とで区画され、前面に開口７を有する角箱状に形成されている。右端の収納体２の上方位置にはクッキングヒーター８が組み付けられており、下方位置には調理具を収納するための引き出し９・９が組み付けられている。他の三つの収納体２のそれぞれには、上中下の三段の引き出し９・９・９が開閉可能に組み付けられている。図１において符号１０は、収納体２の上面に設けられたシンクを、符号１４は、システムキッチン１の左右端に組み付けられるエンドプレートを示す。

【００２４】

図３に示すように、引き出し９は、扉板１１に把手を有しないフラット扉タイプの引き出しであり、上中段の引き出し９・９の間には、把手の替わりとなる手掛かりスペースを確保することを目的として、前方側に開口した凹入部１２を有する化粧板１３が取り付けられている。凹入部１２に被さる扉板１１の上端部分或いは下端部分（図１参照）に手指

を掛けたうえで、これを手前に引くことで、スライドレール１５に沿って引き出し９を開き操作することができる。図２に示すように、各収納体２における化粧板１３の取り付け位置は、厳密に同じ高さ位置に設定されており、システムキッチン１の全体で、１本の化粧板１３が左右方向に走るように見せている。

【００２５】

図１および図４に示すように、化粧板１３は、部分円弧状の周面を有して左右方向に走るベース壁１６と、該ベース壁１６の上下端部に連続して前方向に突出する上下壁１７・１７とを有する断面略コ字状のアルミニウム製の条材（アルミモール）であり、収納体２の左右側板３・３に装着されたブラケット２０により、収納体２の前面開口７に架設状に取り付けられている。上下壁１７・１７の前端のそれぞれには上下向きに延びる前壁１８・１８が連出されている。

【００２６】

ベース壁１６の後面には、化粧板１３をブラケット２０に差し込み係合するための装着部１９が設けられている。装着部１９は、ベース壁１６の後面から後方向に突設する上下一対の係合壁２１・２１と、係合壁２１の後端部（先端部）に設けられた抜止部２２とからなり、各係合壁２１の上下方向の内側には、該係合壁２１と協同してエンドキャップ２３のピン２５の周面を抱持する周壁２６が設けられている。これら係合壁２１および周壁２６は、化粧板１３の長さ方向（左右方向）の全長にわたって形成されている。図６に示すように、抜止部２２は、前向きに指向する受面２７を備えており、該受面２７の上下の外側壁には、傾斜案内面２８が形成されている。

【００２７】

エンドキャップ２３は、化粧板１３の左右の両端部に装着されるものであり、図４に示すごとく、化粧板１３のベース壁１６、上下壁１７・１７および前壁１８・１８を受け止める受板３０と、受板３０の前側周縁から左右方向に立ち上げ形成された縁壁３１とを一体に形成してなる樹脂成形品である。受板３０の内面中央の二箇所には、ブラケット２０の係合壁２１と周壁２６との間に抜け止め状に抱持されるピン２５が立設されている。

【００２８】

図１および図４に示すごとく、ブラケット２０は、収納体２の左右側板３・３の内面にビス３２で締結固定するための締結孔３３を有する略四角板状のベース３５と、ベース３５の前面側に設けられて、化粧板１３の装着部１９と係合する係合部３６と、係合部３６に係合捕捉された化粧板１３のベース壁１６の後面を前方向に付勢する付勢部３７とを有し、これらを一体に形成してなる樹脂成形品である。ベース３５は、左右両面の中央部に凹部３８を有する段付き状に形成されている。

【００２９】

図６に示すように、係合部３６は、ベース３５の前部の上下端のそれぞれから前方向に張り出し形成された上下一対の弾性係合腕４０と、該弾性係合腕４０の前端部（先端部）に設けられて化粧板１３の抜止部２２に係合する係合爪４１とからなる。より詳しくは、ベース３５の前部の上下両端から前方向に向かって導出端部４２が張り出し形成されており、導出端部４２の前端部が、連出腕４３と弾性係合腕４０とからなる二股形状とされている。連出端４３と弾性係合腕４０との間に、弾性係合腕４０の撓み変形を許す変形隙間Ｅが形成されている。係合爪４１は、後向きに指向する係合面４５を備えており、上下の内側壁には、傾斜案内面４６が形成されている。

【００３０】

上下の弾性係合腕４０・４０の間に形成される付勢部３７は、ベース３５の前端面から前方向に向かって両持ち状に連出されたアーチ状の弾性部材４７であり、弾性部材４７が後方向に押された際に、原形回復力に由来する前方向の弾発力を発揮する。

【００３１】

ブラケット２０は、一方の左右側面にのみ凸部が設けられた、正面視で左右非対称を呈している。具体的には、弾性係合腕４０の両端部に隣接する左右の一側面（図４では右面）から、上下一対の四角ブロック状の凸部４９・４９が突設されている。連出腕４３の先

端にも柱状の凸部５０が同方向（右方向）に突設されている。かかる凸部４９は、図７および図８に示すごとく、開口部５３を備える左右側板３にブラケット２０を装着する際の位置決め要素となるものであり、その詳細については後述する。凸部４９・５０を有する面とは反対側の左右側面には、その導出端部４２の先端部に、エンドキャップ２３を挿入するための凹部５１が肉盗み形成されている（図４および図５参照）。

【００３２】

そのうえで、ブラケット２０は、図１に示すように、上下方向には対称状に形成されている。これによれば、収納体２の左側板３ａに装着される左側のブラケット２０ａと、収納体２の右側板３ｂに装着される右側のブラケット２０ｂとを、同じ成形用金型から成形された共用部品とすることができる（図５参照）。

【００３３】

化粧板１３は、以下のような手順で収納体２の前面開口７に取り付けることができる。ここでは、平坦な左右側板３（図４参照）に化粧板１３を取り付ける場合について説明する。まず、収納体２の左右側板３の所定位置のそれぞれに、ビス３２によりブラケット２０を締結固定する。ここでは、凸部４９・５０を有しないフラットな左右側面が左右側板３に対向するようにブラケット２０を固定する（図１および図４参照）。

【００３４】

次に、化粧板１３の左右両端部にエンドキャップ２３を装着したうえで、上下の係合壁２１をブラケット２０の上下の弾性係合腕４０に位置合わせし、その状態から化粧板１３を後方に向かって押し込む（図５の白抜き矢印参照）。これにより、弾性係合腕４０が上下方向に弾性変形して抜止部２２の傾斜案内面２８に沿って滑り移動して行き、係合爪４１が、図１に示すごとく抜止部２２に弾性係合腕４０の弾性復元力を以て嵌入係合し、これにて、化粧板１３はブラケット２０に完全に装着された状態となる。このとき、弾性係合腕４０は、連出腕４３との間の変形隙間Ｅに向かって弾性変形する。連出腕４３との分岐基端と係合爪４１の先端部とで規定される弾性係合腕４０の長さ寸法は、できる限り短く設定して、装着後に弾性係合腕４０が不用意に弾性変形して、化粧板１３が脱落することを防いでおり、これにて、化粧板１３を嵌め殺し状に確実に取り付けることができる。

【００３５】

以上のように、本実施形態に係る取付構造によれば、収納体２の前面側からの化粧板１３の押し込み操作だけで、化粧板１３を取り付けることができるので、従来の取り付け作業では不可欠であった、収納体２の収納空間Ｓ（図３参照）内に作業者が潜り込んでのブラケット２０と化粧板１３との間のビス止め作業を完全に排することができ、したがって、化粧板１３を少ない手間で作業効率良く取り付けることができる。狭い収納空間Ｓ内で無理な姿勢で作業を行う必要がなく、作業者の負担が少ない点でも優れている。左右側板３に対してブラケット２０を位置精度良く取り付けることにより、化粧板１３が傾いたり、位置ズレすることも確実に防止できる。したがって、化粧板１３を収納体２に対して高精度に取り付けることができる。

【００３６】

図６に示すように、係合爪４１が抜止部２２に嵌入係合した化粧板１３の装着状態において、係合爪４１の後向きに指向する係合面４５と、抜止部２２の前向きに指向する受面２７とが係合するとともに、付勢部３７の弾性力で化粧板１３は前方向に付勢された状態となる。かくして、付勢部３７の弾性力で受面２７を係合面４５に遊動不能に押し付けて、両面２７・４５間の大きな係合力で化粧板１３を保持することができるので、化粧板１３の脱落を確実に防ぐことができる。化粧板１３がガタ付いて耳障りな騒音を発することもない。

【００３７】

本実施形態に示すブラケット２０は、図７および図８に示すような使用形態にも適用することができる。そこでは、左右側板３に開設されたコ字状の開口部５３の近傍位置にブラケット２０を定着している点が、先の図１と相違する。また、システムキッチン１の全体として１本の化粧板１３が通設されている点も、先の図１に示す形態と相違する。つま

り、左右の中央部に位置する収納体２の左右側板３を貫通して、１本の化粧板１３が配設されている。

【００３８】

具体的には、ブラケット２０の左右側面の一側面に形成されたブロック状の凸部４９を位置決め要素として、ブラケット２０を定着している。つまり、凸部４９が左右側板３の側に指向するような図１とは表裏逆姿勢にブラケット２０を配したうえで、凸部４９を開口部５３の開口縁に掛かるようにブラケット２０を押し当てて位置決めし、かかる位置決め状態から、ブラケット２０をビス３２で締結固定している。

【００３９】

このように、本実施形態に係るブラケット２０は、平坦な左側板３および右側板３に取り付ける形態（図１、図４および図５参照）だけでなく、開口部５３を有する左側板３および右側板３（図７および図８参照）にも取り付けることができる。つまり、本来ならば、４つの取付パターン（左右方向の２方向、および開口部５３の有無の組み合わせ）に応じた４種のブラケット２０を用意する必要があるところ、同じ成形用金型から作製された１種のブラケット２０を適用することができる。

かかる効果は、一方の左右側面３に対してのみ凸部４９を形成して、正面視で左右非対称状にブラケット２０を形成するとともに、当該ブラケット２０を上下方向に対称状に形成したことにより得られたものである。これにて、ブラケット２０を共用化した分だけ部品の種類を減らし、同時に成形用金型を削減できるので、化粧板１３が取り付けられる収納体２の全体コストを削減化して、低コスト化要求に応えることができる。

【００４０】

（第２実施形態）

図９ないし図１３に、本発明に係る化粧板の取付構造の第２実施形態を示す。この第２実施形態では、ブラケット２０の付勢部３７の形態が、先の第１実施形態と大きく相違する。すなわち、付勢部３７は、ベース３５の前端部から前方向に向かって片持ち状に連出された上下一対の弾性部材４７・４７としている。図１０に示すように、上方の弾性部材４７は、ベース３５の右側面から左方向に向かって連出されており、下方の弾性部材４７は、ベース３５の左側面から右方向に向かって連出されており、これら左右交差状に伸びる上下一対の弾性部材４７・４７に由来する弾発力により、化粧板１３を前方向に付勢する。かかる形態は、弾性係合腕４０・４０の上下の間隔寸法が小さく、第１実施形態のようなアーチ状の付勢部３７の形成が困難な小型のブラケット２０に好適である。

【００４１】

加えて、第１実施形態では、一種のブラケット２０で、４つの取付パターン（左右方向の２方向、開口部５３の有無の組み合わせ）に対応できるようになっていたところ、この第２実施形態では、図１２および図１３に示すような左右対称の二種のブラケット２０ｃ・２０ｄで、図１２（ａ）・（ｂ）および図１３（ａ）・（ｂ）に示すような４つの取付パターンに対応可能となっている。すなわち、左右のブラケット２０ｃ・２０ｄは、左右勝手違いに形成されており、各ブラケット２０ｃ・２０ｄの左右側面のいずれか一方から、位置決め用の凸部４９が突設状に形成されていて、他方の左右側面が、出っ張りの無い平坦状に形成されている。これによっても、本来は４種のブラケットが必要であるところ、これが２種のブラケット２０ｃ・２０ｄで済むため、ブラケット２０を共用化した分だけ部品の種類を減らすことができる。また、成形用金型を削減できるので、化粧板１３が取り付けられる収納体２の全体コストを削減化して、低コスト化要求に応えることができる。それ以外の点については、実質的に第１実施形態と同様であるので、同一部材には同一の符号を付して、その説明を省略する。

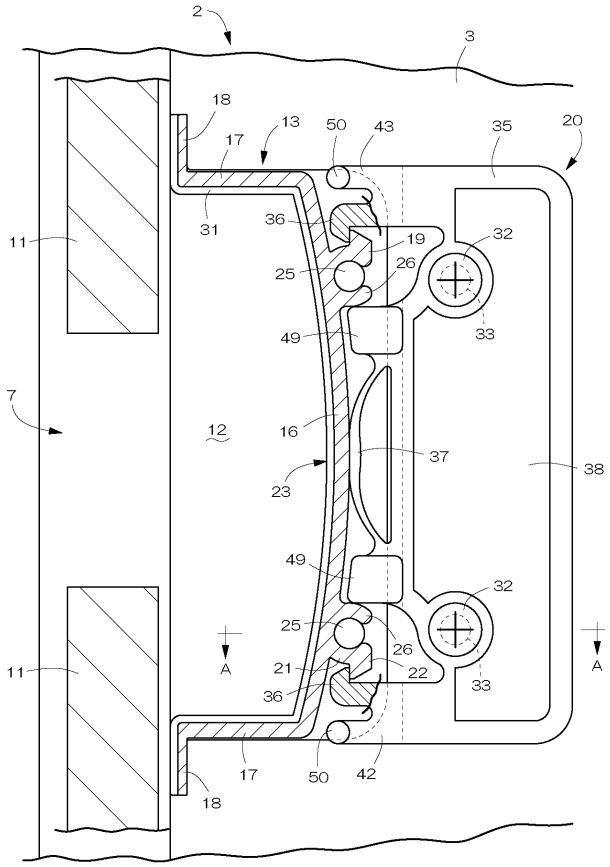
【００４２】

本発明はスライドタイプの引き出し９に限られず、開き扉や観音扉の手掛かり用の化粧板にも適用することができる。洗面台の収納体にも適用することができる。壁面の隙間を埋める化粧板の取付構造にも適用することができる。

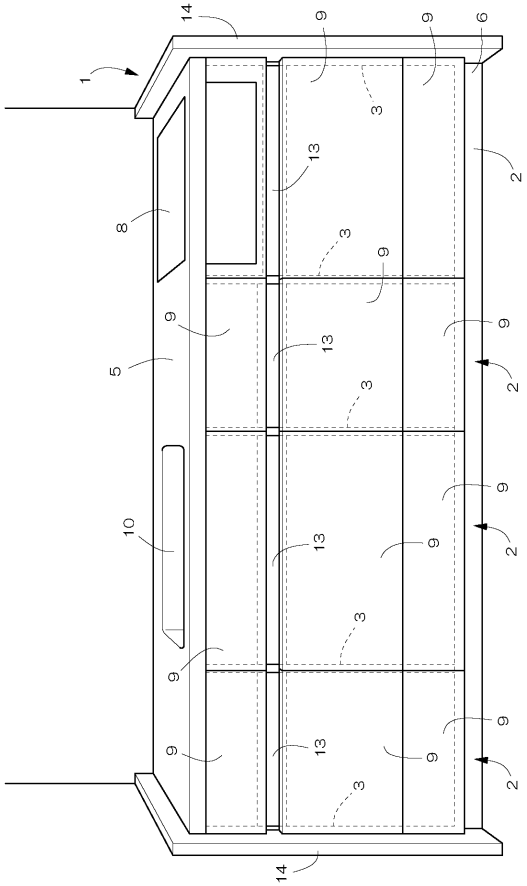
【図面の簡単な説明】

【００４３】
【図１】本発明の第１実施形態に係る化粧板の取付構造を示す縦断側面図である。
【図２】本発明に係る化粧板の取付構造が適用されるシステムキッチンの外観図である。
【図３】収納体の縦断側面図である。
【図４】化粧板、ブラケット、エンドキャップの外観斜視図である。
【図５】図１のＡ－Ａ線断面図である。
【図６】要部の縦断側面図である。
【図７】ブラケットの取付形態の変形例を示す縦断側面図である。
【図８】変形例の要部の横断平面図である。
【図９】本発明の第２実施形態に係る化粧板の取付構造を示す縦断側面図である。
【図１０】化粧板、ブラケット、エンドキャップの外観斜視図である。
【図１１】要部の横断平面図である。
【図１２】（ａ）・（ｂ）は、フラットな左右側板に対するブラケットの取付形態を説明するための図である。
【図１３】（ａ）・（ｂ）は、開口部を有する左右側板に対するブラケットの取付形態を説明するための図である。
【符号の説明】
【００４４】
２　収納体
３　左右側板
７　前面開口
１６　ベース壁
１７　上下壁
１９　装着部
２０　ブラケット
２１　係合壁
２２　抜止部
２７　受面
２８　傾斜案内面
３３　締結孔
３５　ベース
３６　係合部
３７　付勢部
４０　弾性係合腕
４１　係合爪
４２　導出端部
４５　係合面
４７　弾性部材
４９　凸部
５０　凸部
Ｅ　変形隙間

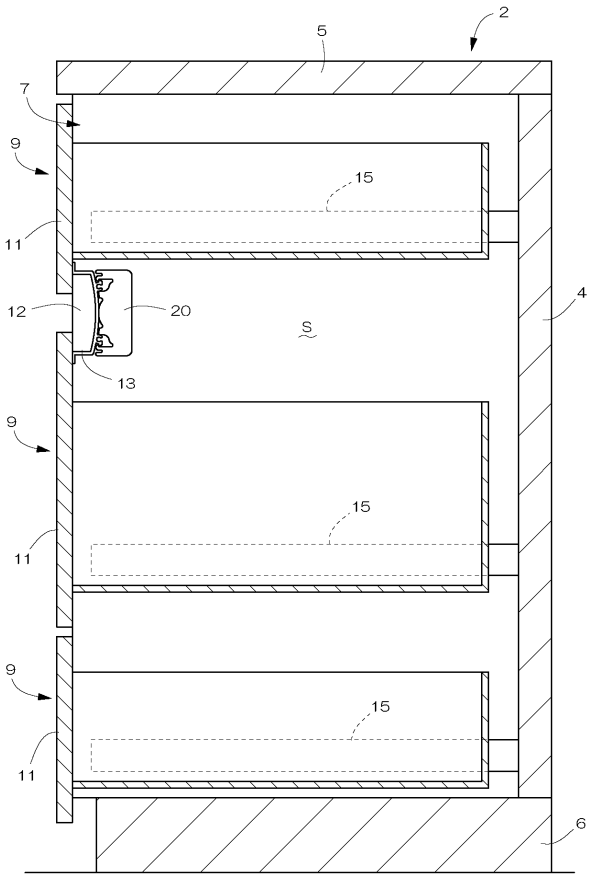
【図１】


2
3
18
17
13
50
43
35
20
11
36
19
32
31
25
26
33
49
7
12
16
37
38
23
A
A
21
22
42

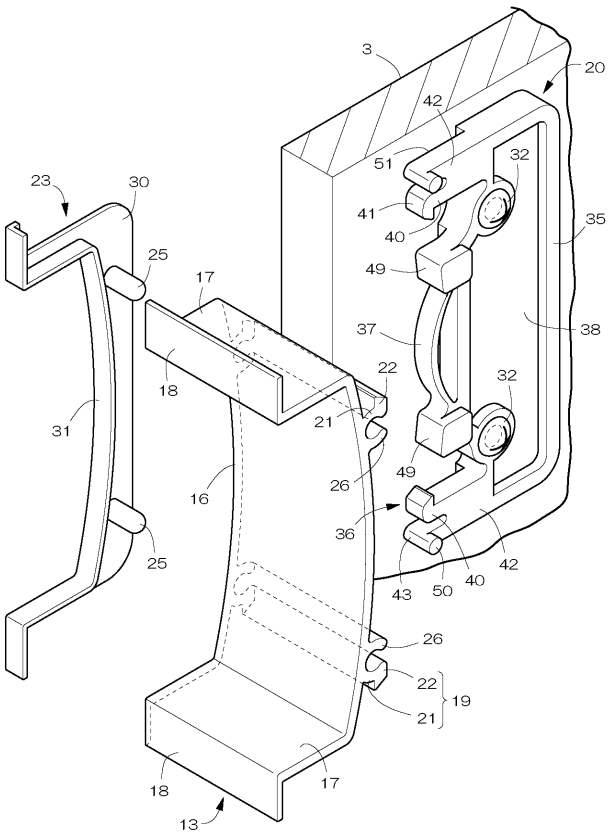
【図２】


14
9
6
1
3
2
13
8
5
10
14

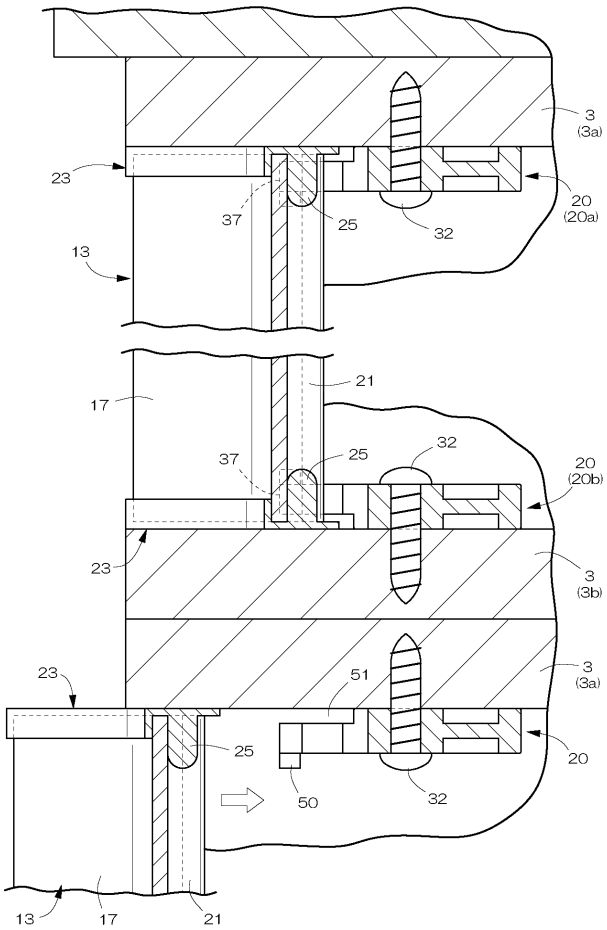
【図３】


2
5
7
9
15
11
12
20
S
4
13
6

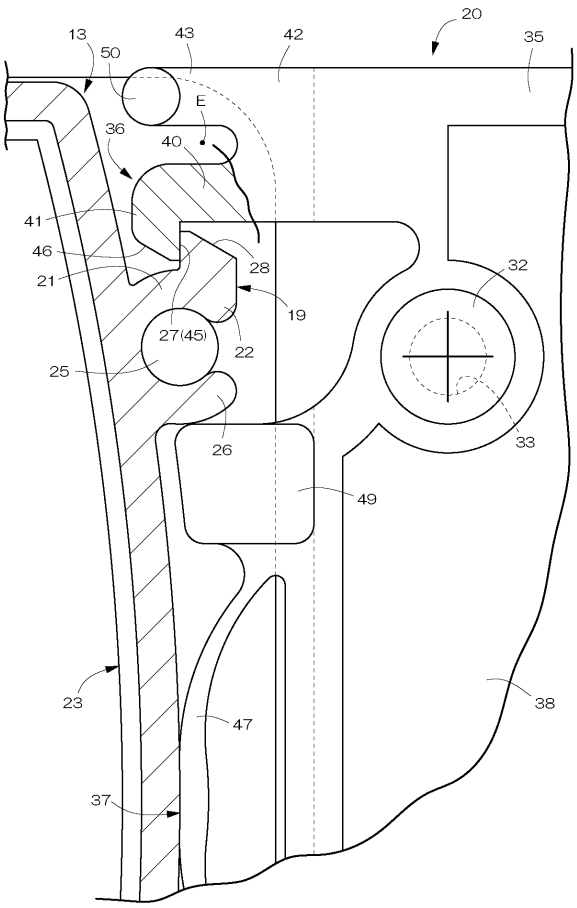
【図４】


3
20
42
51
32
23
30
41
40
35
25
17
49
37
38
22
18
31
21
16
26
36
43
50
42
19
13

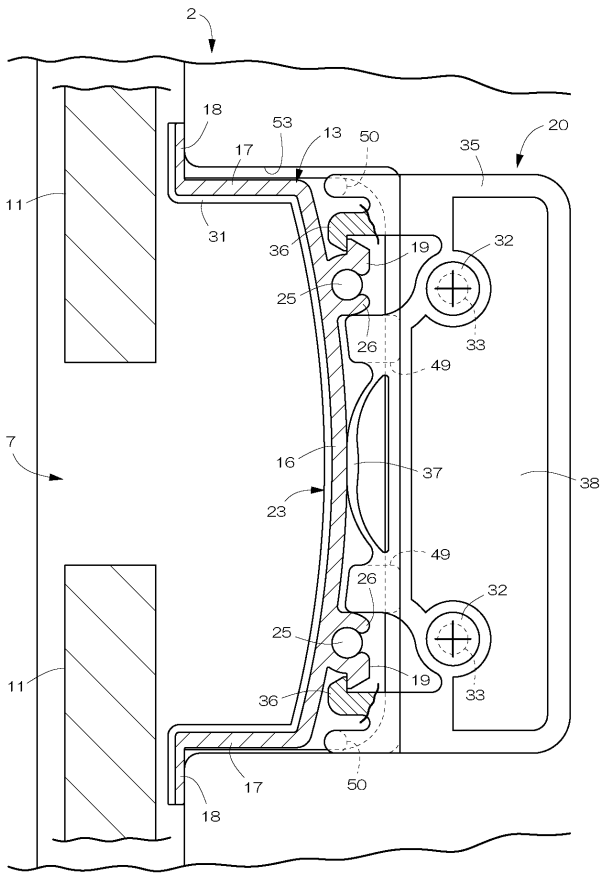
【図５】


3
(3a)
23
20
(20a)
37
25
32
13
21
17
37
25
32
20
(20b)
23
3
(3b)
23
51
3
(3a)
25
20
50
32
13
17
21

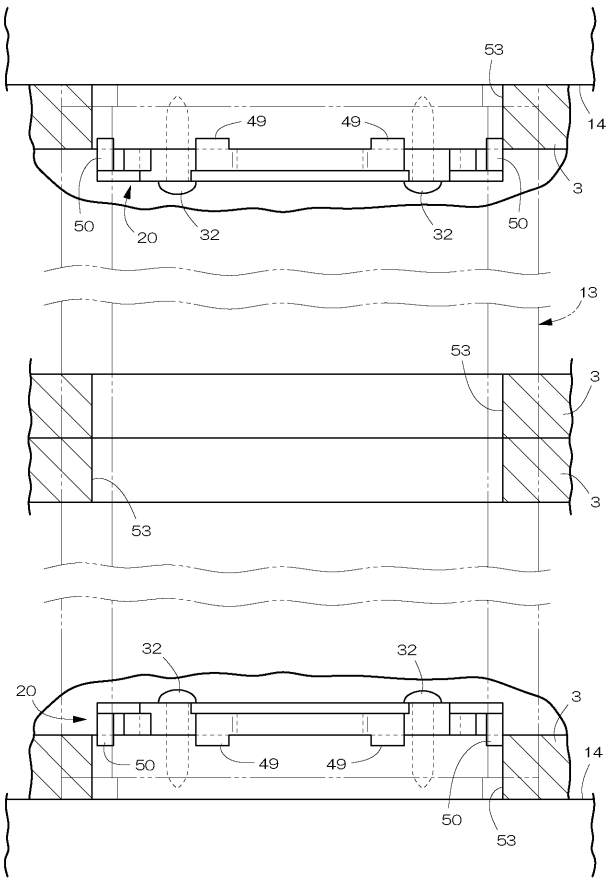
【図６】


20
13
50
43
42
35
E
36
40
41
46
21
28
19
32
27(45)
22
25
26
33
49
23
47
38
37

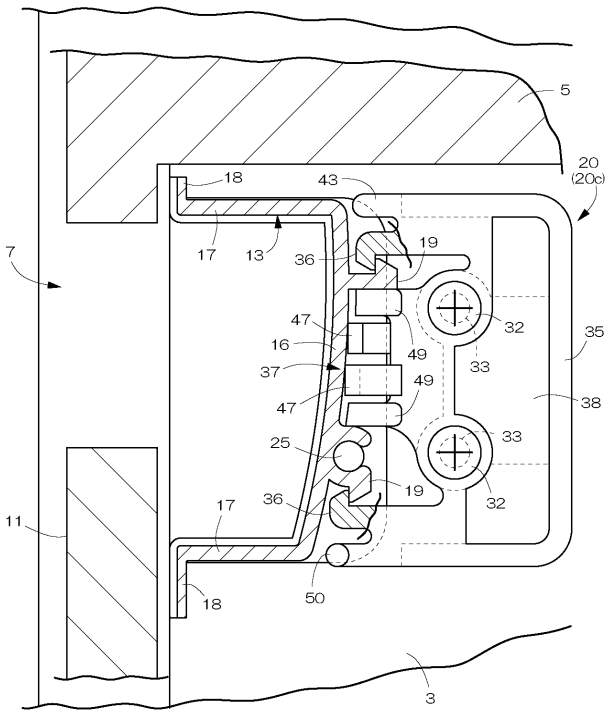
【図７】


2
18
53
13
50
20
35
17
11
31
36
19
32
25
26
33
49
7
16
37
38
23
49
26
32
25
19
11
36
33
17
50
18

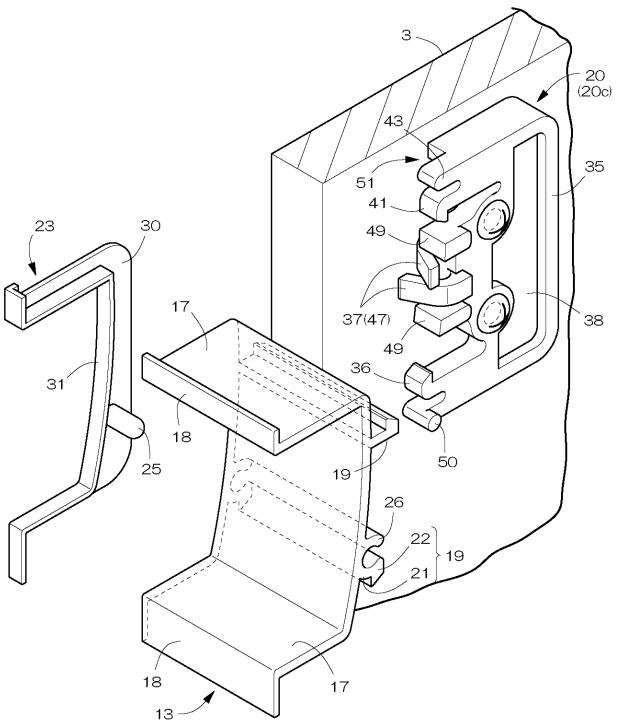
【図８】


53
14
49
49
3
50
20
32
32
50
13
53
3
3
53
32
32
20
3
50
49
49
14
50
53

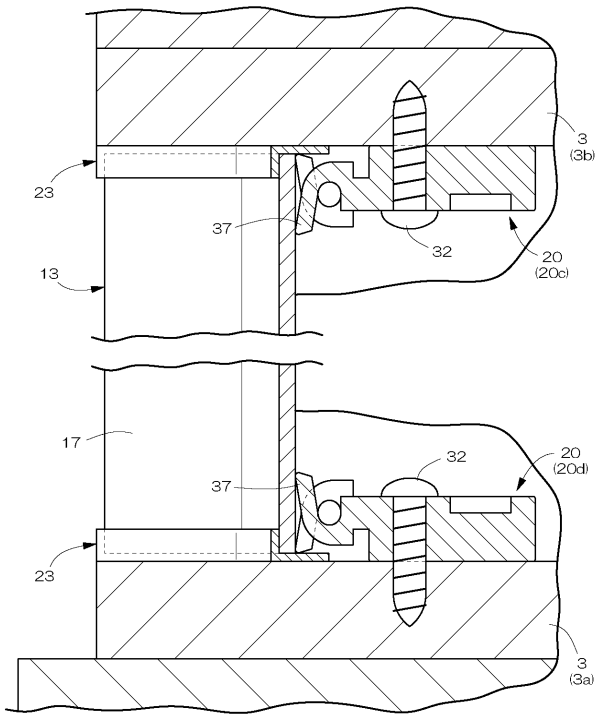
【図９】



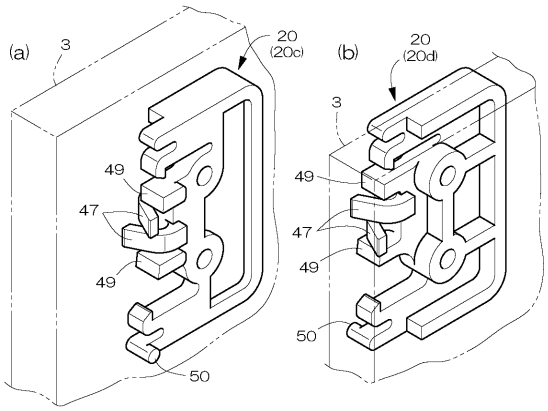
【図１０】



【図１１】



【図１２】



【図１３】

